

倫理委員会議事概要 平成23年3月3日開催分

申請者	副看護師長	大井 敦子
課題名	ALS患者の誤嚥性肺炎発症とサブスタンスPの因果関係の検討	
研究等の概要	目的	筋萎縮性側索硬化症(以下ALSとする)は運動ニューロンの変性により全身の運動麻痺が起こる。また、その多くの患者は球麻痺症状により唾液の嚥下が不能となり誤嚥性肺炎を発症し死の直接的原因となる例も少なくない。嚥下を促進するサブスタンスPは、分泌量が減少すると誤嚥のリスクが高まると言われているが、ALS患者におけるサブスタンスP分泌量がどのように変化しているのかを把握することにより、ALS患者の誤嚥と誤嚥性肺炎発症件数を軽減できるのではないかと考えた。そこで今回、誤嚥性肺炎を発症する患者とそうでない患者において、サブスタンスPの分泌量と肺炎発症時の分泌量で差があるのかを調査し、サブスタンスP分泌量がALS患者の誤嚥性肺炎発症に影響しているかを検証する。
	対象及び方法	対象:本研究に同意を得られる当病棟入院中のALS患者 方法:1. これまでの誤嚥性肺炎発症の有無 2. 誤嚥性肺炎発症の既往の有無でグループ分け(さらにグループ内で65歳を境に年齢でカテゴリーに分ける)し、サブスタンスP濃度を測定する。 3. バイタルサイン・毎月の定期採血・3ヶ月毎の胸部定期X-P写真・採痰検査データ収集 4. ①肺炎症状が見られた際はサブスタンスP濃度測定 ②口腔内細菌検査・採痰検査により原因菌確認と人工呼吸器装着患者においては(CDCガイドラインの人工呼吸器関連肺炎の定義による)人工呼吸器関連肺炎との判別を行う
判定	承認	

申請者	看護師長	越田 ひろ子
課題名	動脈硬化病変(頸動脈血栓症)における血液抗酸化力と栄養代謝の臨床研究	
研究等の概要	目的	外来患者で、動脈硬化病変(頸動脈血栓症)を有する対象例における血液抗酸化力と栄養代謝の関連を調べて、日常生活改善指導につなげる。
	対象及び方法	対象:外来患者で本人、家族から研究に同意を得られる20名 方法:研究開始時、1年以内に血清酸化ストレス度(d-ROMsテスト)・抗酸化力テスト(BAPテスト)を測定、測定結果のデータの分析・評価
判定	承認	

申請者	作業療法士	松村 菜緒子
課題名	当院の重症心身障害児(者)における毛細血管血流の臨床研究	
研究等の概要	目的	重症心身障害児(者)は、健常人と比較し短命であるといわれている。本研究は毛細血管の血流速度や弾性度を測定することで、短命であることと血管状態との関係性を調べていく。
	対象及び方法	対象: 当院に入院している重症心身障害児(者) 方法: 末梢毛細血管血流計(毛細血管血流速度)と加速度脈波計(血管弾性度)、サーモグラフィにて測定し、その結果を考察する
判定	承認	

申請者	栄養士	大久 朋子
課題名	脂質異常症における免疫担当能と栄養代謝の臨床研究	
研究等の概要	目的	脂質異常症において免疫能力とタンパク質分画等の関係を明らかにし、栄養代謝が免疫機能に及ぼす病態を研究する。
	対象及び方法	対象: 脂質異常症と診断された外来患者のうち、本人から同意を得られる者 方法: 研究開始時血液検査を行い、検査結果の分析・評価を行う
判定	承認	

申請者	栄養士	大久 朋子
課題名	個人の性格テストによる継続栄養指導の効果の臨床研究	
研究等の概要	目的	継続栄養指導を受けている外来患者に対して性格テストを行い、栄養指導の効果を解明し、今後の指導につなげる。
	対象及び方法	対象:継続栄養指導を受けている外来患者のうち、本人から同意を得られる者 方法:12回目の栄養指導後にモーズレイ性格テストを実施する
判定	承認	

申請者	言語聴覚士	古内 洋
課題名	摂食・嚥下訓練を行うことによるサブスタンスP数値の関連性と有用性について(VF検査による嚥下機能と不顕性誤嚥の評価を用いて)	
研究等の概要	目的	不顕性誤嚥の有無をVF検査で確認し、咳反射に関わる重要な物質であるサブスタンスPの量を測定し、一定期間STの摂食嚥下訓練と自宅での自主訓練を行う。その後再度サブスタンスPの数値を確認し、摂食・嚥下訓練とサブスタンスPの関連性、訓練の有用性を検討することを目的とする。
	対象及び方法	摂食・嚥下障害を有し、VF検査を実施した後、言語聴覚士の訓練を行った患者様を対象とする
判定	承認	

申請者	言語聴覚士	田畑 恵太
課題名	言語発達障害を有する症例に対し、身ぶりや文字などの異モダリティ(様式)を用いた関わりが音声発信に及ぼす影響について	
研究等の概要	目的	音声発信困難な症例に対し、異モダリティでの関わりを取り入れた訓練を実施し、その後の発生表出及び日常コミュニケーションとの関連性と有用性を検討することを目的とする。
	対象及び方法	言語発達障害を有し、言語聴覚士の訓練を行った患者様を対象とする。
判定	承認	

申請者	運動療法主任	八木橋 清子
課題名	脳卒中片麻痺患者に対する治療的電気刺激の臨床的治療効果	
研究等の概要	目的	脳卒中片麻痺患者に対する治療的電気刺激は、痙性の抑制や筋の再教育などでその有用性が示され、臨床場面でも多く使用されている。目的とする神経や筋組織を刺激するために電気刺激は皮膚を通過する必要があり、皮膚の電気抵抗を減少できればより効率よく電気刺激を通電し、患者に不快感の少ない電気刺激を行うことが出来る。今回使用する電気刺激装置は、皮膚抵抗の少ない・不快感の少ない電気装置といわれている。本研究では、電気刺激装置を使用しての臨床的治療効果(麻痺の改善等)・電気刺激装置を使用しての不快感の有無を検証していきたいと考えている。
	対象及び方法	対象: 当院入院中の脳卒中片麻痺患者(但し、電気刺激装置の禁忌である心臓疾患、ペースメーカー使用者、感染症、悪性腫瘍、有熱者、結核性疾患、血圧異常、急性疾患、極度の衰弱時、妊婦、幼児、または意思表示のできない人、血流障害の可能性のある人等は除く) 方法: 理学療法時、電気刺激装置ES-530(伊藤超短波株式会社製)を使用し電気刺激療法を行う。定期的に麻痺の程度(Brunnstrom Stage)を測定、また、VASを用い不快感を聴取する。
判定	承認	

申請者	運動療法主任	八木橋 清子
課題名	痛みに対する電気刺激装置の臨床的治療効果	
研究等の概要	目的	疼痛は、人間が何度も経験するものであり、理学療法や日常生活を送る上で障害因子となりうる。当院でも疼痛を訴える理学療法を施行している患者・職員は多数いる。本研究では、電気刺激装置を使用し疼痛の緩和をはかり、その臨床効果を痛みの評価スケールVASを使用して検証していく。
	対象及び方法	対象:腰痛を訴えている職員(但し、電気刺激装置の禁忌である心臓疾患、ペースメーカー使用者、感染症、悪性腫瘍、有熱者、結核性疾患、血圧異常、急性疾患、極度の衰弱時、妊婦、幼児、または意思表示のできない人、血流障害の可能性のある人等は除く) 方法:電気刺激装置ES-530(伊藤超短波株式会社製)を使用し電気刺激療法を行う。定期的にVAS・腰痛評価を測定する。
判定	承認	

申請者	薬剤科長	中川 修一
課題名	酸化マグネシウムの薬剤投与方法の検討(その2)	
研究等の概要	目的	軽質酸化マグネシウムの経管栄養チューブ閉塞防止効果の研究。
	対象及び方法	対象:重質酸化マグネシウムを経管で投与している5病棟の入院患者様 方法:軽質酸化マグネシウムは無定形粉末で軽く分包しにくい薬品です。流動性を向上させ分包しやすくするために、1包につき0.3gの馬鈴薯デンプンを加え、病棟で従来から行っている方法で経管投与する。
判定	承認	

申請者	副看護師長	城前 基子
課題名	「フィッシュ哲学」の浸透 ～いきいき・楽しい職場づくりを目指して～	
研究等の概要	目的	組織の活性化とスタッフの士気向上のため「フィッシュ哲学」が浸透し、実践の前後でスタッフの意識に変化が見られるか検証する。
	対象及び方法	対象:看護課職員84名 方法:「フィッシュ哲学」について、再度学習会や取り組み経過を示した新聞の発行、ポスター掲示、病棟装飾、スタッフ個々対してのメッセージカードの配布、Y-G性格検査等を行い、実施前後でアンケート調査を実施する。
判定	承認	

申請者	看護師	種市 美穂
課題名	変形・拘縮のある重症心身障がい児(者)に合わせ作成した手浴用具の洗い残しの検証 ～従来の手浴用具と比較して～	
研究等の概要	目的	手指や肘関節の変形、拘縮や筋緊張のある重症心身障がい児(者)の特徴に合わせた手浴用具と従来の用具との違いを検証する。
	対象及び方法	対象:手指や肘関節の変形、拘縮、筋緊張のある患者様及びベッド上で手浴を行っている患者様5名 スタッフ2名 方法:1)シュヨック1・2号の評価 2)グリッター・バグを使用し、洗面器とシュヨックの洗い残し・違いを検証 3)コミュニケーションのとれる患者様からの感想聴取 4)スタッフからのアンケート調査
判定	承認	

申請者	臨床検査技師長	高橋 清孝
課題名	尿中アルブミンは慢性腎臓病(CKD)の予後因子となりえるか？	
研究等の概要	目的	腎症を診断するための検査としては、腎機能を推定するための検査と、腎糸球体障害を検出するための検査が行われている。前者としては、推算糸球体濾過量(eGFR)が近年注目されており、また、後者は腎糸球体障害を検出するための検査として、試験紙を用いた尿蛋白の定性検査が健康診断などを通じて行われている。今回我々は、当院来院中の患者さんを対象に、尿中アルブミン定量、尿定性蛋白量のデータを得て、罹患率について検討する。
	対象及び方法	当院通院外来患者様を対象に、尿中アルブミン/クレアチニン比(ACR)と尿定性蛋白量、血圧の症例データを集計し検討する。
判定	承認	

申請者	診療放射線技師長	庄司 俊雄
課題名	病診連携における高額医療機器(CT装置)の共同利用に伴う受診行動に関する臨床研究(その2)	
研究等の概要	目的	病診連携における高額医療機器共同利用の一環として、生協診療所からCTの契約撮影受入を開始し、この3年間で延べ380件となった。 アンケート調査を通して利用者が当院を受診する際の受診行動にまつわる問題点を探ることで、更なる病診連携の強化、地域医療への貢献を発展させることを目的とする。
	対象及び方法	生協診療所を受診する患者、または付き添いの方にアンケートを実施する。
判定	承認	

申請者	主任保育士	太田 壽美子
課題名	準超重症者にスヌーズレンを取り入れた活動の実践	
研究等の概要	目的	スヌーズレンは心地よい感覚刺激(光・音・臭い)を提供しリラックスしてもらう活動であり、周囲の環境に働きかけをしていく面とリラックスする面の二面性がある。特に知的な活動をしないことから誰もが楽しめ、感覚を適度に刺激することから心身の調和を図ることができる。当病棟では気管切開や酸素吸入を必要とされている準超重症者は離床時間、保育活動に制限があり参加回数が少ないため自室にて定期的にスヌーズレン(スヌーズレンの環境を設定した部屋)活動をすることで、よりリラクゼーションが図られる。
	対象及び方法	対象:準超重症者2名 方法:週1回、1時間程度で実施 視覚、聴覚、触覚、臭覚の刺激を目的にタッチランプ、ツリーチャイム、電飾、プロジェクター、ビーンズクッションや様々な素材の玩具を準備し、スヌーズレン実施中の様子を記述記録し、ビデオカメラ、デジタルカメラで表情、反応行動等を観察していく。
判定	承認	

申請者		
課題名		
研究等の概要	目的	
	対象及び方法	
判定		